

「賀古駅家、発掘ものがたり」 12 <駅家本体に迫る>

溝の追求は少しおいて、掘削する機械の段取りから、次に駅家の本体（駅館院：えきかんいん、やっかんいん）の調査に入りました。例の方形地割が残されているところです。

とはいうものの、駅館院の東辺には、オークラ輸送機さんの駐車場のフェンスが巡っているため、今回はその外側、つまり駅館院の東外側に接する部分の調査ということになります。

トレンチは方形地割りの東辺にできるだけ近づけて設定し、調査しました（5トレンチ）。この5トレンチには、瓦が埋められていた溝（SD05、レーダー探査での「埋設管のようなもの」）の続きを探すという目的も兼ねています。

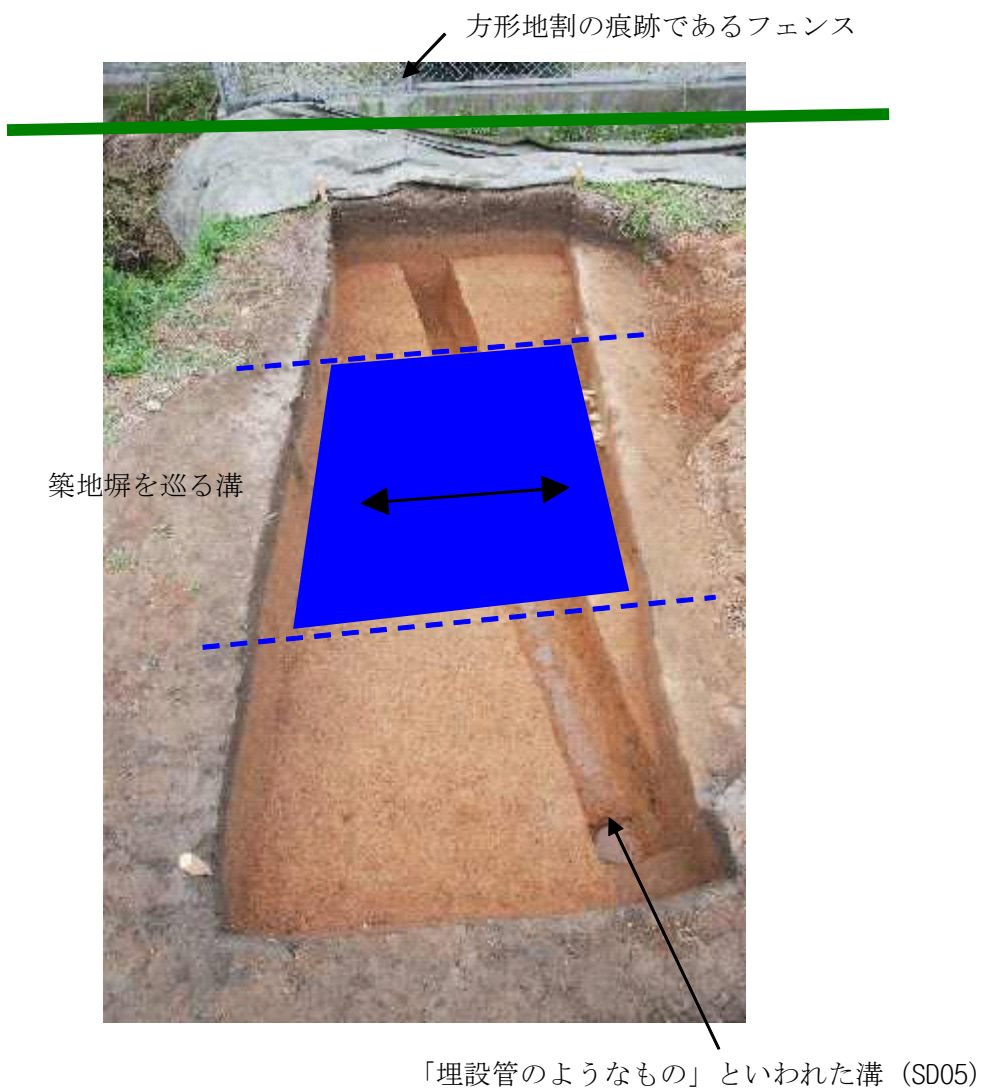
発掘した結果、地中レーダー探査で想定したとおり、溝（SD05）の続きが見つかりました。しかし、このトレンチからはそれ以上の発見があったのです。それは、駅館院の東辺に沿うようにして見つかった南北方向の溝（幅2.7m、深さ45cm）です（また溝か・・・と思わないで！！）。

この溝は方形地割りに沿っていることから、駅館院の築地塀の外側を巡る溝であると考えられます。瓦葺きの築地塀から落ちる雨を受け止めていた溝だったのでしょうか。単なる溝ではありますが、ここで初めて賀古駅家本体の一部が見つかったことになります。現在確認できる方形地割り（＝駅館院）は、この溝で囲まれているのでしょうか。

約1,200年ぶりに日本最大の駅家、「賀古駅家」が顔を出した瞬間であり、これまでの研究史が正しかったことが証明された瞬間でもありました。

そして、「埋設管のようなもの」といわれた溝（SD05）は駅館院を囲む溝が埋まった後に掘削されたことが明らかとなり、やはり駅家の時代より後の溝であることがわかりました。そのまま駅館院の中まで直進しているところをみると、おそらく築地塀さえもなくなってしまう頃に掘削された溝なのでしょう。

こうして、想定されていたとおり、順調に古代山陽道、賀古駅家が見つかっていった訳ですが、次のトレンチで今回の発掘調査最大の謎に直面することになるのです・・・



5 トレンチで見つかった時代の異なる溝 2 本



築地塀を巡る溝の土層断面